

2021年10月1日(金)

2日目 A会場

シンポジウムⅣ『機能神経外科から見る高次脳機能』 8:50~10:50

座長：鈴木 匡子 (東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学)

近藤 正樹 (京都府リハビリテーション支援センター、
京都府立医科大学大学院脳神経内科学)

- 1 超選択的 Wada テストによる高次脳機能の検討p70
鈴木 匡子 (東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学)
- 2 感情認識と島一島回への刺激は感情認識を変化させるのかーp71
寺澤 悠理 (慶應義塾大学文学部心理学研究室)
- 3 電気刺激療法と記憶p72
高宮 彰紘 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)
- 4 迷走神経刺激が感覚野の神経活動へ及ぼす影響p73
高橋 宏知 (東京大学大学院情報理工学系研究科)

特別講演Ⅱ 11:00~12:00

座長：三村 將 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

Drawing on the past to envision the future : Evidence from neuropsychological studiesp36

Mieke Verfaellie (Boston University School of Medicine and VA Boston Healthcare System, USA)

ランチョンセミナーⅢ 12:10~13:00

座長：井上 猛 (東京医科大学精神医学分野)

大うつ病性障害の認知機能障害の評価法、治療的介入

豊巻 敦人 (北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室)

共催：持田製薬株式会社/吉富薬品株式会社

シンポジウムⅥ『記憶と時間』 13:10~15:10

座長：河村 満 (奥沢病院名誉院長/昭和大学名誉教授)

梅田 聡 (慶應義塾大学文学部心理学研究室)

- 1 未来をみつめる認知神経メカニズムの解明p82
梅田 聡 (慶應義塾大学文学部心理学研究室)

- 2 「こころの時間」を支える神経基盤p83
二村 明德 (昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門)
- 3 時の流れの神経基盤p84
北澤 茂 (大阪大学生命機能研究科)
- 4 主観的時間の神経メカニズムp85
林 正道 (情報通信研究機構未来 ICT 研究所脳情報通信融合研究センター脳情報通信融合研究室/大阪大学大学院生命機能研究科)

2021年10月1日(金)

2日目 B会場

シンポジウムV 『コロナ時代の遠隔神経心理学的検査のあり方』

8:50~10:50

座長：橋本 衛 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

数井 裕光 (高知大学医学部神経精神科学講座)

- 1 本邦におけるオンライン診療導入経過とエビデンスp76
岸本泰士郎 (慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座)
- 2 院内外多職種連携における精神科オンライン診療の役割p77
木村 大 (国際医療福祉大学精神科/学会会木村病院/千葉大学大学院医学研究院精神医学)
- 3 遠隔で神経心理学的検査を行う際の実施方法と留意点p78
江口 洋子 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)
- 4 遠隔で行う神経心理学的検査の validation と feasibilityp79
飯干紀代子 (志学館大学人間関係学部心理臨床学科)

教育講演IV (ビデオ講演)

12:10~13:00

座長：山縣 文 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

Neuroscience inspired public policy : A new agenda on human development in the post-COVID-19 erap44

Facundo Manes (Institute of Cognitive and Translational Neuroscience (INCYT), INECO Foundation, Favaloro University, Buenos Aires, Argentina)

教育講演V

13:10~14:10

座長：大槻 美佳 (北海道大学大学院保健科学研究院)

Clinical and Imaging Phenotypes of Primary Progressive Aphasiap46

Boon Lead Tee (Assistant Professor, University of California, San Francisco, USA)

教育講演VI

14:10~15:10

座長：今村 徹 (新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健学専攻言語聴覚学分野)

報酬系とドーパミンp48

小林 俊輔 (帝京大学医学部神経内科学講座)

座長：石合 純夫（札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座）

脳内炎症、グリア細胞と認知機能障害：PET イメージングによる研究と考察……………p50

安野 史彦（国立長寿医療研究センター精神科）

2021年10月1日(金)

2日目 C会場

一般口頭発表 2-1 『記憶 1』

8:40~9:20

座長：中村 光 (岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科)

- 2-1-01 高い記憶能力を日常記憶に活用できない右被殻出血例p102
○太田 信子、種村 純
川崎医療福祉大学リハビリテーション学部言語聴覚療法学科
- 2-1-02 左脳梁膨大後部病変による記憶障害の入力様式と記憶素材の特異性についてp102
○後藤 貴浩、植村ほのか、山口 真依、高橋 佳子、加藤 貴行、金丸 晶子
東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科
- 2-1-03 脳出血による左側頭葉損傷後、数唱が4桁士でも、論理的記憶が良好だった言語性短期記憶障害の一例p103
○藤永 直美¹⁾、船山 道隆²⁾、三村 将³⁾
東京都リハビリテーション病院リハビリテーション部言語療法・心理科¹⁾、
足利赤十字病院精神神経科²⁾、慶應義塾大学医学部精神・神経科³⁾
- 2-1-04 比較的軽度の外傷性脳損傷者の日常生活における具体的なうっかりミスp103
○中島明日佳¹⁾、船山 道隆²⁾、中村 智之¹⁾、稲葉 貴恵¹⁾
足利赤十字病院リハビリテーション科¹⁾、足利赤十字病院神経精神科²⁾

一般口頭発表 2-2 『記憶 2』

9:20~10:00

座長：佐藤 正之 (東京都立産業技術大学院大学認知症・神経心理学講座)

- 2-2-01 失語症者の音韻性短期記憶における項目と順序の記録p104
○中山 拓弥¹⁾、藤田 郁代²⁾
国際医療福祉大学熱海病院リハビリテーション部¹⁾、
国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科²⁾
- 2-2-02 軽症の新型コロナウイルス感染症により記憶障害を呈した一例p104
○石澤 朋子¹⁾、安藤 牧子¹⁾、川上 途行²⁾、伊澤 良兼³⁾
慶應義塾大学病院リハビリテーション科¹⁾、
慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室²⁾、慶應義塾大学医学部神経内科³⁾
- 2-2-03 高齢者の社会的出来事記憶の想起—「遠隔記憶検査」最新版を用いて—p105
○山本小緒里¹⁾、田中 春奈²⁾、小西 海香³⁾、江口 洋子³⁾、斎藤 文恵³⁾、三村 悠³⁾、
穴水 幸子^{3,4)}
千葉県千葉リハビリテーションセンターリハビリテーション治療部言語聴覚科¹⁾、
東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科²⁾、
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室³⁾、栃木県精神保健福祉センター⁴⁾

- 2-2-04 統合失調症における将棋による認知リハビリテーション介入前後比較研究からの質的および量的検討p105
 ○是木 明宏¹⁾、伊奈川愛菓¹⁾、小泉 輝樹¹⁾、峯岸 駿多¹⁾、楠戸 恵介¹⁾、先崎 章²⁾、女屋 光基¹⁾
 下総精神医療センター¹⁾、東京福祉大学社会福祉学部²⁾

一般口頭発表 2-3 『画像とモデリング』

10:00~10:50

座長：西尾 慶之（東京都立松沢病院）

- 2-3-01 混合型超皮質性失語例における脳内機能的結合性p106
 ○内田 信也¹⁾、中山 拓弥²⁾、杉山 正樹³⁾、菅野 洋^{4,5)}
 国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科¹⁾、
 国際医療福祉大学熱海病院リハビリテーション部²⁾、国際医療福祉大学熱海病院放射線室³⁾、
 国際医療福祉大学医学部脳神経外科学⁴⁾、国際医療福祉大学熱海病院脳神経外科⁵⁾
- 2-3-02 高齢発症の双極性障害患者における脳内アミロイド・タウ蓄積、神経心理症状の評価：
¹¹C-PiB、¹⁸F-PM-PBB3 を用いた縦断 PET 研究p106
 ○佐野 康徳¹⁾、高畑 圭輔^{1,2)}、森口 翔^{1,2)}、山本 保天^{1,2)}、黒瀬 心^{1,2)}、
 小久保奈緒美²⁾、小西 海香¹⁾、互 健二²⁾、平田 浩聖²⁾、松岡 究²⁾、遠藤 浩信²⁾、
 高堂 裕平²⁾、斎藤 文恵¹⁾、樋口 真人²⁾、三村 将¹⁾
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室¹⁾、
 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門量子医科学研究所脳機能イメージング部²⁾
- 2-3-03 遅発性に病的収集活動を呈した単発頭部外傷の1例p107
 ○黒瀬 心^{1,2)}、高畑 圭輔^{1,2)}、宮田 真里²⁾、佐野 康徳^{1,2)}、山本 保天^{1,2)}、
 森口 翔^{1,2)}、互 健二²⁾、高堂 裕平²⁾、松岡 究²⁾、遠藤 浩信²⁾、平田 浩聖²⁾、
 斎藤 文恵¹⁾、樋口 真人²⁾、三村 将¹⁾
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室¹⁾、
 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門量子医科学研究所脳機能イメージング部²⁾
- 2-3-04 絵画命名課題におけるシミュレーションモデルの改定提案p107
 ○浅川 伸一¹⁾、大門正太郎²⁾、上間 清司³⁾、高倉 祐樹⁴⁾、吉原 将大⁵⁾、橋本 幸成⁶⁾、
 寺尾 康⁷⁾
 東京女子大学¹⁾、クラーク病院²⁾、イムス板橋リハビリテーション病院³⁾、北海道大学⁴⁾、
 国際交流基金⁵⁾、目白大学⁶⁾、静岡県立大学⁷⁾
- 2-3-05 機能的電気刺激の力制御のための筋肉モデリングp108
 ○下村 晃功、桂 誠一郎
 慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科

座長：田渕 肇 (つつじメンタルホスピタル)

- 2-4-01 精神症状の進行に伴い、生活実態の把握が難しくなり精査困難となったレビー小体型認知症の1例p108
 ○村田 和人¹⁾、齊藤 隆之¹⁾、鈴木 朱音¹⁾、清塚 鉄人²⁾、岩本康之介²⁾
 国家公務員共済組合連合会三宿病院リハビリテーション科¹⁾、
 国家公民共済組合連合会三宿病院神経内科²⁾
- 2-4-02 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下の認知症患者の疾患理解と予防行動についてp109
 ○内山由美子¹²⁾、橋田 秀司²⁾、三條 伸夫¹⁾、山田 正仁¹⁾
 国家公務員共済組合連合会九段坂病院脳神経内科¹⁾、日本赤十字社医療センター神経内科²⁾
- 2-4-03 アルツハイマー病患者における共感の低下が臨床像に与える影響：情報提供者に施行する質問紙を用いた検討p109
 ○松井 智世^{12,3)}、佐藤 卓也²⁾、今村 徹^{1,3)}
 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健学専攻言語聴覚学分野¹⁾、
 新潟リハビリテーション病院リハビリテーション部言語聴覚科²⁾、
 新潟リハビリテーション病院神経内科³⁾
- 2-4-04 医学的対処可能性のない疾患の発症リスクを安全で効果的に情報開示する最善の手続きの開発p110
 ○和氣 大成^{1,2,3)}
 Oxford Uehiro Centre for Practical Ethics, University of Oxford, UK¹⁾、
 埼玉医科大学総合医療センター神経精神科²⁾、慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室³⁾

座長：福井 俊哉 (かわさき記念病院)

- 2-5-01 初期の Posterior cortical atrophy における視空間ワーキングメモリの低下をタッピングスパン課題で捉えられるかp110
 ○船山 道隆¹⁾、中川 良尚²⁾、砂川 耕作³⁾、川島 広明⁴⁾、中島明日佳⁴⁾、三村 将⁵⁾
 足利赤十字病院神経精神科¹⁾、江戸川病院リハビリテーション科²⁾、
 関西医科大学リハビリテーション学部³⁾、足利赤十字病院リハビリテーション科⁴⁾、
 慶應義塾大学医学部精神・神経科⁵⁾
- 2-5-02 パーキンソン病における高照度光療法による認知および運動機能の変化p111
 ○齋藤 朋子¹⁾、長谷川千洋²⁾、博野 信次²⁾、遠藤 卓行¹⁾
 国立病院機構大阪刀根山医療センター脳神経内科¹⁾、神戸学院大学心理学部心理学科²⁾
- 2-5-03 急性一酸化炭素中毒による遅発性脳症の神経心理学的予後p111
 ○三村 悠¹²⁾、船山 道隆¹⁾、高田 武人¹⁾、三村 将²⁾
 足利赤十字病院神経精神科¹⁾、慶應義塾大学病院精神・神経科²⁾

- 2-5-04 大脳皮質基底核症候群における症状と頭頂葉病巣：2症例の検討より ……………p112
 ○伊関 千書¹⁾、鈴木 匡子²⁾、小林 良太^{1,3)}、太田 康之¹⁾
 山形大学医学部第三内科神経学分野高次脳機能科¹⁾、
 東北大学大学院高次脳機能障害学講座²⁾、山形大学医学部精神医学講座³⁾

一般口頭発表 2-6 『認知症 3』

14:30~15:10

座長：小森憲治郎（十全ユリノキ病院心理室）

- 2-6-01 非流暢/失文法型原発性進行性失語（naPPA）を呈した Pick 病 ……………p112
 ○大槻 美佳¹⁾、谷川 聖²⁾、中川 賀嗣³⁾、廣谷 真⁴⁾、江口 克紀⁵⁾、白井 慎一⁵⁾、
 岩田 育子⁵⁾、松島 理明⁵⁾、脇田 雅大⁵⁾、芳野 正修⁶⁾、大嶋 祐貴⁷⁾、水島 慶一⁵⁾、
 田中 伸哉²⁾、佐々木秀直⁸⁾、矢部 一郎⁵⁾
 北海道大学大学院保健科学研究院¹⁾、北海道大学医学部腫瘍病理学教室²⁾、
 北海道医療大学リハビリテーション科学部³⁾、札幌パーキンソンMS神経内科クリニック⁴⁾、
 北海道大学神経内科⁵⁾、帯広厚生病院脳神経内科⁶⁾、旭川赤十字病院脳神経内科⁷⁾、
 函館中央病院⁸⁾
- 2-6-02 失構音/発語失行を主症状とする進行性非流暢性/失文法性失語（naPPA）例に対する「構音の歪み」の軽減に向けた治療的介入の試み ……………p113
 ○高倉 祐樹¹⁾、大槻 美佳¹⁾、芳野 正修²⁾、脇田 雅大³⁾、松島 理明³⁾、廣谷 真⁴⁾、
 矢部 一郎³⁾
 北海道大学大学院保健科学研究院¹⁾、帯広厚生病院脳神経内科²⁾、北海道大学脳神経内科³⁾、
 札幌パーキンソンMS神経内科クリニック⁴⁾
- 2-6-03 経過とともに反響言語が顕著となった進行性非流暢性失語の2症例 ……………p113
 ○太田 祥子¹⁾、森田亜由美²⁾、成田 渉^{1,3)}、川上 暢子¹⁾、小林絵礼奈^{1,4)}、菅野 重範¹⁾、
 鈴木 匡子¹⁾
 東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野¹⁾、東北大学病院リハビリテーション部²⁾、
 仙台リハビリテーション病院³⁾、横浜市立大学大学院医学研究科神経内科学・脳卒中医学⁴⁾
- 2-6-04 語義失語様の症状を呈す進行性失語で非 AD・tauopathy が疑われる一例……………p114
 ○小西 海香¹⁾、斎藤 文恵¹⁾、手塚 俊樹²⁾、田淵 肇^{1,3)}、三村 将¹⁾
 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室¹⁾、慶應義塾大学医学部神経内科²⁾、
 つつじメンタルホスピタル³⁾